

プロジェクト撤退・縮小ルール ID:1-3s-01800		作成日付	更新日付	作成者	承認者	Software Engineering Center
プロジェクトの位置付け		社会からの要請が高まっているテーマであり、また、顧客への公正を実現するという経営方針に鑑みても、重要度の高いプロジェクトである。 そのためには、現状の業務の問題にとらわれずに抜本的な改革を行う必要がある。 ゆえにトップダウンプロジェクトと位置付ける。				
意思決定体制		当社設備設計部門が主体となって、プロジェクトの推進を行う。 関係部門間の意見調整は、設計部、営業部、用地部、保安部、品質管理部、情報システム部、関係会社からなるWGにて行う。				
目標		委託先を含めた業務分担の見直しと業務プロセスの簡素化を行うことで、業務の効率化を目指すとともに、厳正的確な業務運営を実現する。				
効果		業務効率化（費用削減効果〇〇円／年）、スピードアップ、顧客利便性向上、業務適正化				
制約	費用	システム構築初期コストが〇〇百万円以内、年換算システム構築・運用コストが〇〇万円以内				
	期間	平成XX年上期にシステム稼働				
	品質	テスト密度 x ケース／F P 以上、運用開始までに本番移行リハーサルの実施、ユーザ研修の完了				
撤退ルール		<ul style="list-style-type: none"> ・期待する業務効率化が達成できないと判断される場合は撤退する。 ・年換算のシステム構築・運用コストが業務効率化効果を超えると判断される場合は撤退する。 ・業務革新上必要となる社内制度改革の目処がつかず、システム利用が軌道に乗らないと判断される場合は撤退する。 ・撤退の判断は、設計部が行い、レビューで報告する。 				
縮小ルール		<ul style="list-style-type: none"> ・定性的効果を勘案し、金額換算できる効果が投資の〇〇%を越えるまで機能を縮小する。 ・平成XX年上期の稼働時期を考慮して、必要最小限の機能に縮小する。 （縮小した機能を開発する場合は、別途費用対効果の評価を行い、効果のない開発を避ける） ・写真データ技術の実用性には問題がある場合は、関連する機能を縮小する。 ・縮小の判断は、設計部が行い、レビューで報告する。 				